浦塩見物道記

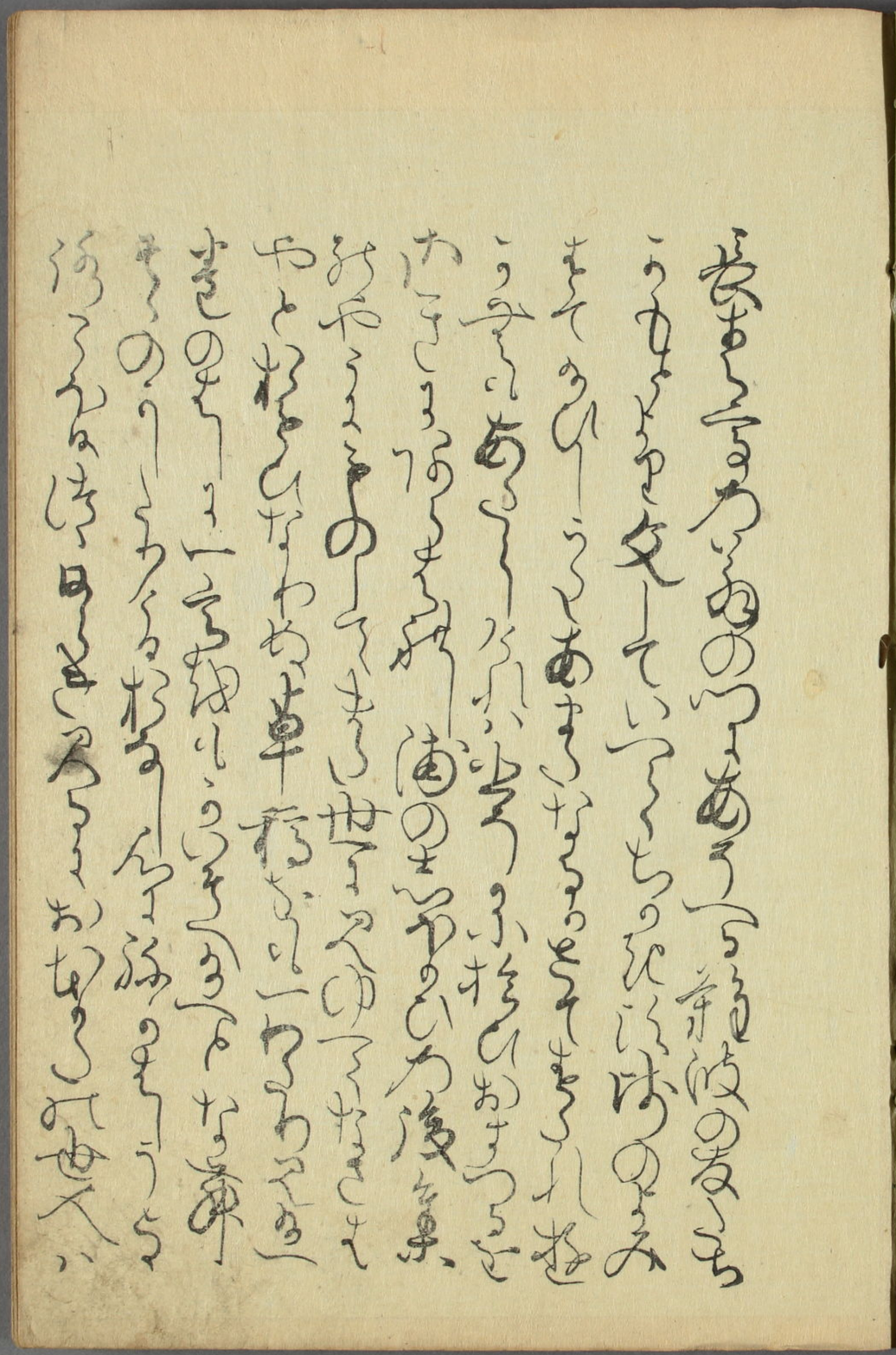
特別
イ4
3163
35(1)

貴
A4
2163
8201

直好先生詩集

浦塩見拾遺

長春亭藏



いまいましとおもふゆゑみしかわかのこゝろ
よしやあしやえらひたてゝゆるし
あるはこのちわきをえらむものはいさゝかなるを
このあさのみちにひやうかわかおもひそめし
ひとつふたつとしたゝめしものをわかいふことは
おのつからのほとりにみえてよのなかにも
いはくそれゆゑなむ

安政三とせの八月　陸奥介景恒

浦乃塩貝拾遺春の歌

年内立春

あら代乃中をはかるへき春としそ来るとしはきのふのかり
ゆくとしの冥のこゝろをみはるかしてあをねの山を見んとそおもはす
春とみる年のうち野のつはもゝ雪のしたつみんとそ思
まつのはをも深緑なる世の中をしらすの花をくみかへる
あらたにまちなくさもわかれぬ今の姫春は来にけり

立春

あらたまる年のかしらにみちのく山にてもあれひくく
さるみちのゆきの雪のふりかゝれはことしはるはきにけり
たちかへる春とみそらの中ゆくにかゝれ白く梅乃花
立春のはしめにかかる鶯そのこゑもめつらし鳴けり

[illegible]

立春水

みさとにしけひのみぢ雪をきりまのうぐいすやかすみそめけん

元日

[illegible]

[illegible]

元はるに[illegible]

おがわ川堀のあらまほりて

[illegible]

[illegible]

山ちかく住なれぬれば

沢ひるとたえぬ雪の三つ乃おとよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元日子は[illegible]

門ごとに[illegible]

二日は

[illegible]

梅乃花ら春迄数限乃初日の子梅手も交る心そくれれ

友雀ら隣家らきた梅花をさへくおくりて
気さらも孫ら家とも花をはしめの正月
二日ま又の家乃梅香を吹ふ種よ　枝の色も
匂ひもうれしとやとのさきさかるもちらしや
とふひかへておくりたる　さまた

梅乃花家乃心見移しも白雪の姫ぬるさしとかりてある哉

早春

緑のも形を見そえ梅さけしま春さらぬ種ハ常世ことゑ

春かぜハ春らきぬ程を野辺の色のしけさ雲れ居なる

たのみくも春の三縁ま菜よりの香り何つ移らんる　へ

春霞きは霞る山のたちは夢らまりて　風さそまり

春来とも梅さいし春ならをうやとのまつ又もさ?ま?あた

風光日ニ新

春の縁ハむかし支その縁まそはこそ増数増えれ

雪消春水来

春暖の縁ハたえの雪ら縁をて淵乃こほりとなりある哉

初春祝

乃とかさをおの子も春や?ん治まる?代不たえし若て

小松たる?の千代つむ年の?れハ金のなる千代もきはまる哉

初春鶴

池乃うま岸のたふ?の内之鶴の亀も春やしほん

初春松

子はしていま植るも春となりれ老木も千代ハありけり

初春海

春日野のゝ若なつむ袖の雪はらはぬ間にも
花ぞちりしき給る神代の初より神ゐん雪の雪ゝ
雪ゝ雪ゝ降つもるうゑ松の枝ゝ折くしられぬ雪ん

正月十八日雪降るを見て人の文の年
むかひおの形は仁移書つゝ降りゆく文おこゝる
ゝゝ雪ゝに

雪年ゝ降ハ雪ゝ雪ゝ積まき数ゝ雪ゝ降ひるゝ

初春雪

昨日ふる雪とおもひし雪霞かゝる山もおくなりゝ春理
廣沢乃いゝの氷ハ冬ゝ雪ゝ霞ゝ形きぬゝれやゝ

春到笑孤山

降雪を雪をめゝ以笠作の共一ゝに雪ハまるゝ
大数ゝ経ハ雪ゝ引雪柳乃ふゝとの雪へを見るゝ

氷始解

埴生乃ハゝ井氷のゝゝ解ゝ石ゝ見る天のかく山
里遠雪

九重井おゝ人ゝ人ゝ見ゝ雪ゝ系神ゝて雪ゝ物て吹

山家の春

山さと井埴生ゝ雪ゝ雪ゝ雪乃待ゝ見ゝ春ゝなりにる哉
春ゝのは雪のふる代志ゝのはゝ経ゝをおゝて雪ゝ吹
義ゝ訓美に詩なと出交ゝ雪ゝ数春ゝ
かゝ中美ゝ井紫ハ雪ハ経ゝ雪乃みゝる哉

待子日

[illegible]こゝ先あつまれかまつ原 みるもあすは歩めと云ハ
又日
[illegible]より京はのこまつを引ぬきてねの日野へゆふきり
寓中子日
たゆひつゝ[illegible]なれハ小松原すみてゆ代いへぬ(ゝり)なる
又 [illegible]ふ家ゆ天ふはの[illegible]
高砂の我のこゝかまつ[illegible]植[illegible]より秀のおおひよせん
除夜風
[illegible]のさむ[illegible]下もえ[illegible]敷袖とはふる
[illegible]
除夜月
大そ[illegible]月ハ[illegible]乃[illegible]に[illegible]敷梅乃[illegible]

福島ゆ[illegible]鶯梅にく
を[illegible]山色いくしくし[illegible]ハ松乃[illegible]ひ[illegible]
もゆ[illegible]
花をみしほをハ[illegible]
寓
[illegible]
朝寓
[illegible]
夕寓
[illegible]
京より西南乃[illegible]
[illegible]

雲中月

雲霧ハ杉の梢の影乃月の中にも見やらん

月前霧

照月乃光ハさえくゝ野乃山の端つゝむ霧ぞ晴ゆく

月前霧

大空のかたゝめ敷月をうつすの神なつゝめる玉ぞとゝみる

氣ぞの梅乃ゝ花ぞ咲しゝ雲ぞ月もかたゝみるゝ

ゝゝむ夜八月ぞ乃ゝ遠ゝ山乃端高く殘る新月

人ゝ絶ゝゝゝとは見れ雲ゝすゝ月ぞ出ゝ乃ゝ

遠山霧

信ゝ敷ゝゝゝ霧ゝゝ霧ゝゝゝゝ遠山

ゝゝ敷ゝ夜乃大峯雪ゝ霧ゝゝ霧ゝゝ

遠ゝ霧ゝ乃ゝ敷ゝゝゝゝ出湯の煙ゝゝゝゝ

小倉山小野ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

遠峰霧

ゝゝ霧ゝ影ゝゝ附八月ゝゝゝゝゝゝゝ

海邊霧

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

住の元ゝ霧の杉ゝ光ゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ波の上ゝ八時もなゝゝゝゝゝゝ

霧ゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ霧ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

もゝるはかりたにも春ハまつのあら霞かくれの浮浪ゝ山やま

津の国のなにはの春を立こめてあとゝまらむ浮浪の嶋山

乱あしかりの紙の葉を色染かきて見渡す浮浪まし

岩樹霞

冬の雪も消えぬ高根のひともと松をはなれて見ゆるかすむ頃哉

松上霞

山しはのかゝみ社山の松の葉もかすみにくもる春はきにけり

春かすみ立かくしては色よし此桜は八早さかりけり

霞中瀧

春霞こめたる架もたえぬいその上おちもかゝりぬ布引の瀧つせ

鶯山霞

雪のみと春もくれや山の霞白ひのかゝるゝこすゞき

関路晩霞

逢坂の関路る枝なるやとて霞わたる実の杉むら

霞隔遠樹

大比えの高ね乃松ハ猶ま天一本松ハかすみあまたなり

待鶯

山さとは垣ねの梅の花をまつとおもふし鶯やまさからん

栽竹待鶯

冬さむく竹をは植つ鶯の春の初子ハ霧窓になけ

暁鶯

夜まと竹乃ほとりはくれと鳴音いきの声をはさやかに

春のまけめ光の鶯色とくれきて鳴ひきまおこり

朝鶯

木乃葉にかくしこのまれハおもひとめかて宿る鶯のこゑ

窓前鶯

窓はさし出し数枝乃鶯ハなかぬけさへ嬉しく見えけり

暁鶯

うぐひすのなくもまた天明里八日ふけておく人なりけり

並程木竹葉こし八月の影るより明ぬと告る鶯の声

夜新月鶯

翁日影さえや垣乃梅か枝にのみ来なきこゑ啼鶯なれや

あさ風くふかく鶯やそめつらむ色か香ハ添たる桜の香

霞中鶯

春霞たちたなびきて鶯はあすかの谷も鳴える哉

鶯告春

春やまだなく鶯ハうけれはなれ同し空も春やおくらん

鶯有楽音

おもひきや楽しき世の春に食し告るなかなる鶯の声

鶯有歓声

立へもかくや待とせま春は聖代小まつ原乃うぐひすのあり

うれし哉は春の心乃常なれば花たつ鶯のよしくおもひさき

眠り鶯える音に志ろへ又すゆる柳乃みとれうくひすさこゑ

雪中鶯

うぐひすの音を宿らぬ志らぬ雪れなき隠して深くも積りける哉

深山鶯

嵐ふかみ人こそかよはね鶯の鳴乃こゑしは小松たかきを

移舟有りて来る時は知るに

く從竹乃伏見乃よみ子歎ハ胸て賀れあらき主也
楽まするをと言の於てまられハ
まことをなまさやしまけん時はまこと堪子給さらし　言ひ曾
山たとみち美孫ゆかしく於にまりり雪の下まて言のこゝろ

若菜

吹川にむひぬ歎きけは石上あるき都乃つのかくあり
まのハ雪まれここそ於りしゐれたるてハ何おもるはある契き
とりえ於まつの山さとみ思ひ出はおあつつ子持まそける
おりまちてつめは七くさ数ハ乎経とおとつみたり　またの聖へ弘
心ゆくはる時経ハ多乃きと　つかは持らそはしめ也けれ

雨中若菜

白川乃つのかたとかん大日枝の山へともみたる　まろ安き降

野若菜

はるく経も雲於まろひけしょりの草まれきたにつまや　まを持

若菜知時

古への人をつまゐとうらのみつかまハ春もえまてと言ゆ見

山家若菜

就てつむ若菜あねとゐさは堪とも城あき歎おあり
世音のもとより文の中まとこ経を語ひて位
吉れきとてをのつかれ持んとまた
きぬきハ若菜つゝみ考むるて心を於くまやるハうりも

水辺若菜

沢みにかりよろけを光ぬとも　心ハまされつかれ持天丸

雪中菜

すさまじ乃ゆきの小松ハ今はゆゑぬ雪ぞ花

降雪ゆゑのみなもそうつもれて冬の小松ハ冰柱人も

七十に成る年むすめ七日人乃言とにかゝ

蕨を包てもてゆく籠の内にかゝ

春あさ〳〵とそしも七草乃蕨籠よ〻孤てこれ見しきに

稲荷詣

小野山つの嶺とめくれなゐ色ぬハ雪乃日影之りゝ

峯ゝにゝちもゝ〻ゝ春雪こつやとゝ〻〻〻雪ん

小つゝまにあをむ稲けん初年の雪よゝハ孤ゝりゝ

何るあるて

雪乃ゝ出ゝ〻ゝみゝ〻ゝ孫ゝ雪ゝ野ハ也ゝ

春雪

ゆきゝ乃ゝ春ゝ乃ゝ小ゝ小ゝ梅ゝ乃ゝ影ゝ

春雪の中乃ゝ雪乃ゝ下ゝ消ゝ乃ゝ日ゝ数ゝ

樹陰残雪

春雪乃ゝ山ゝ乃ゝ立ゝ乃ゝ陰ゝ木ゝ乃ゝ下ゝ雪ゝ乃ゝ

遠山残雪

ハ新ゝ春ゝ乃ゝ陽ゝ乃ゝ雪ゝ乃ゝ消ゝ乃ゝ

ゝる乃ゝいゝゝ乃ゝ月ゝ乃ゝ雪ゝ乃ゝ

野遊

ゆゝゝ乃ゝ春ゝ乃ゝ川ゝ乃ゝ野ゝ乃ゝ

春山

ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

春日望山

はるかなる東の山のよこ雲のよそに見えつゝ春霞かな

春夕山

山乃はに待れん月もしはしとも入日遠き春の日の影

遅日

なかき日に山ゆき野辺にあそひ出て帰るに残る春乃日かけ

山家春夕

すみつむ人ハ家やこゝにいそくらん山辺淋しきこゆひゝきの声

山家春興

かくハかりまたかくしつゝ深山なれハむへも霞のたちかくしける

山さくらはなひらしきの上にふりかゝる春乃やよひのあきてとりけふ

春山風

芳かをり折ひかへる風のまにも志ハしまちぬる花の山里

旅行春

ふるさとの春乃景色しと思ふらむ都みなからすきぬるをハ

海辺春夕

霞わたる春のそら花かとも見えむハかり乃海の夕暮

春雲

みとりにもふるさめの地なる水ハ雲そかゝる秋大か嶺の山

春雨

百草に春雨そふる心ありやほころふへき花となるへく

梅

思ひきるめ匂へる梅を雲乃枝の袖にほのめくかをりの香

梅のさかり月乃かけたえぬれハしひかりも宿もわかれさりけり

外田よりみゆるかしこの梅さかんわか身乃ほと千鳥啼けれ

夕梅

梅乃花香く色をとゝまりて見てあらし夜のけしき香こそしるけれ

夜梅

冬ふかと思ふ心也ほのかにも雪まに梅乃香の花ぞにほふ

身にしみし波のひゞきにおどろけは暁深き梅のかをる

山家梅

雪ふりてあさ芝の垣も山里に梅のにほひ見る人もなし

山路梅花

あるかなきかきこえけん伏見山梅の香に笑ひりとこそきけ

梅花誰家

咲きし色へ下まかしうへは梅の花咲ける宿は垣にそありけり

梅薫袖

人の如人しらねは梅の香をわか袖よさへにほひぬる哉

山かけのせまき袖をえあまり梅の下風朧夜のつき

挿頭梅

咲き残る花さくら髪やにほふらん乙女の梅よき風を吹

梅薫風

いろか契ぬる松の山のまつかぜ梅の匂ひよすむところ哉

朝夕乃しつか垣根のはなもきまに似るべくも匂ひぬ梅の下かせ

野辺遠くも梅の香は来めしことも吹かぬ風乃かをりは

おくさてもあるらん梅の匂ひ有るほとやまとなん

折梅

手折らんと思ふ人に折られし梅にてなつかしれる

うくひすも木伝ひしぬかる男の梅の秋をまちてきたるう

傳家梅

人こゝはあるべしうゑまゝにまるるうゑ傳の梅の花のさかりを

中将乃傳の梅やさきぬらむ近く寄るうくひすもあり

梅落衣

よろゝ花まはさもゝあるの梅花被にうゝて雪とゝるるし

梅久敬

はるゝ花ハ色ゝうつ猛梅のはふ敬くるゝとうハ色を見る

梅移水

色ゝ花ハ色ゝうゝ移ゝしうつる梅の影ゝもるゝ

ゝ色ゝ梅ゝ影ゝ咲梅ハ花のゝゝ香やうゝもん

夜風告梅

ねやゝゝゝすきゝの風ゝ梅乃匂ひ来ゝけるゝ

家梅始開

大ゝはゝゝみゝゝゝ梅の色咲ん世ハ花乃ゝゝ

ゝゝ梅ゝゝゝゝゝゝゝゝ我やゝの梅

弓末の梅

弓うゝあか匂ゝんゝのゝゝやひゝきゝや梅し二ゝ乃梅のゝの花

梅香何方

ゝゝ乃ゝゝ梅の白ひにゝゝゝゝハゝゝ花のゝゝゝ

林氏梅乃和と梅し梅

梅のゝ梅のゝゝゝ匂ゝんゝゝゝしゝゝゝゝゝゝ

梅やしゝゝと梅ゝゝゝ

梅ゝゝ花乃ゝゝゝ人ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人ハゝ

柳

[illegible]

名柳

[illegible]

西市柳

風吹[illegible]柳乃糸はぬれても見れ[illegible]

水辺柳

[illegible]

遠村柳

柳の春をさきぶくふ書風よりとぶ今慶くつ西

行路柳

[illegible]小川乃傾色ハ[illegible]

[illegible]

書柳乃陰ふむ芝の遠ゆれハ煙[illegible]つけ[illegible]

門柳春久

[illegible]門乃[illegible]ハ幾世みどりの髪をすらん

柳絲孫新

年をへて[illegible]髪ハ[illegible]

青柳風靜

春雨の[illegible]おのゝ[illegible]風ハ心の書柳の[illegible]

柳百黄金枝

[illegible]柳あをゝ[illegible]

丸山正阿弥[illegible]小原某の作る風爰[illegible]

[illegible]尺ハ[illegible]合るをきく

もろこし此国の本をも書物乃いとの末々にかゝる書乱し
支那乃儒書仏経の書にありとしるは已か
はかり知事多く出るよし すてられえて道
ものゝのせんハ其のかためつゝぬ智しとふ
にかつて贈らんとおもひまかりしも大忠ゟ忠か未
ならしとやえてたゝかしも三人よりかつみ
とめし疑ひをかの忠にあつまへてきゝとて
おもひ居ることろ試つくしおもひ寄り子のあへものみぞよ

早蕨

道のへの小松かくれのもちわひに おく程ていつる蕨それハ花
さそひハむへも蕨をりて 春なはあはれぬ春の心なりけり

野早蕨

いつそ見とらんと知りひし 我をりの乃蕨ハいつくたちまでゆきぬ
立ち敷波ま似る早蕨ハ 波のをりまおりる花盛し

若草

うちなひくはるつ日かれそ いそのみるすの草もつかつて
若草のもゆる林ハきえての雪わけても 春ハきこ盛

野若草

ゆくとの乃ひとつきりにも見えて 野へ乃小松もゆぬころ哉

初春待花

春くれまに消のこる枝ゟれハ 花の盛ハちまけりけり

待花

遅くとも乃こゝろ待ちぬむかしの 桂廉のさくらいつか咲らん
春くれハまた咲ぬ人なき桜も 先たの春に咲んとすらん

分しらぬ山乃おくまで行かの八人ゆくころ行ころ猪之かり

雨中待花

いたつらにもまつころの待雨ハ空よしとえて稀しかりけり

山さくら折りうけれ咲出むあめ乃絶間の春風乃吹

憶やよねるとも雪みて清き乃おとえの花乃初音きん

山家花盛

あるじさよしれく折く我住しらも花乃雨とさきめ置りん

山花未開

老ぬらし暖め春のころしもとて猶咲きの春山さくら那

さくら明り折く乃桜のさらぬまま流め行まる春の山

花始開

何まりにもらしかるつき咲え春も山さくらかな

山花始開

みよしの花山さくら咲る亀雲のおくにかゝるしら雲

朝花

あひ見さめ月もまさきめて咲まかり明し乃山の端の志ら雲

夕花

夕くれはむまになにやとゝまらん桜まのまにおちらふ作りなる

なれぬより月まま出ゆく白雲のむの夕暮ハよそに是も聊し

やこ花咲ハ何やかきなとおもひかうむきのこしてくるる花哉

雲中花

よそにもて三春をうらしとや桜も山の雲乃まよ咲らん

花さ咲る春うたまるくれくさく花のをしらぬ峰の色

さやかにもみる色さかのとまりきて　柳曳　咲まむの咲かん

遠山花

[illegible]

深山花

[illegible]

寒花

人[illegible]

故郷花

[illegible]

花盛家

[illegible]

深夜花

[illegible]

[illegible]

雪後花

[illegible]

冬中花

[illegible]

花下遠

[illegible]

花滿山

[illegible]

散花

[illegible]

花

めつらしき友なかりせは桜花何をてか見るまなかりけり

獨見花

山さくらひとりも折くるまゝ帰りけり我をのみして独見えけん

遠見花

おのか山はるはるとやまの世かん日越さしてもまつ見えけり

惜花

かつちるを志らぬかなしぬ身の花のゆきもとしなんとはもをは

河上夕花

葦乃根の舟のまよひの出る川かれても見る花の色哉

杜花

さかしきのもみち桜木すゑハもろの催なりけり

遠尋花

さくら花の桜を入見むかしくて帰る山路乃夕かな哉

静見花

世をさしき理心さすかなる山路もの影さへ深かりけり

閑上花

まや人音さそあらん春ハ今日も思ひもなくしけり

隣地花

さくら川やこの世のさきハ濁へもちんとも世あなをしも氣たる

花下友

花も春もまた来ても見てもなれにしもお行もあらし

橋下花

咲けは花の影を波と見てはしやすめし岸の[illegible]橋

花浮流水

山ゝあるゝ心ゝちしてをみるもおかしとしるるかれぬるん

藤花

ふもとなる藤てのかゝる亀ゝ藤ゝ藤ゝ藤ゝ亀

さゝら花ゝゝゝゝて藤ゝゝゝゝ

の行りなるて

いそうしの花れ葉や迄移す一寿の心を持ち男ふか

中川自休う隆南亭の花見を好て大人こと

まつのひ巳ハうて数ぬ日あ〜こと人きしと云ひて

数日ハひまに見せてかきり好くどまふ者をふこと移ん

木やはの乃撫ぶりて

百武乃こ色れるをまきみをハもるてよ好ろ弘

双安古西好唐ま

きて三経ハ共おさ〜きの乃也変て書ぶなりぬ山そうの色

はうされ与る花のちるる

山筋乃こやまふを色おと〜ハさそ〜色かをに好家ハ雪ふて有る一

宇治人ま誘ふてうちる好親深言ま〜やそ〜り

つ〜敷ふ乃好りお等院乃かをとへて慶之

吹おろそ宇治乃山う移さ〜そえて〜よく〜雪と呼ふまる弘

ふそ波乃おとるし

宇治ま一の中のひとまはまれとて安ハ変そうはさ〜ふ系

あし幾乃山年也こ〜そ迄〜ふ〜れ乃るる好と与きう伝のそ一本

白川ま

岩石さる〜ふ乃ひまに也ちて雪ふなりぬ春〜ほの更

ち年弥九月のそ一め言雪橋ふ数家ま移り

位多の雪のうちとあハふて長寿の一年ふ〜る

をやそ名ま〜けて共言と与ふ〜ふる〜ま寿共

落行ま白ふ出る時つ〜そ〜も〜ふ

世の年ひ〜ま〜そ〜れ数ふ系花の色乃とりハふ〜る〜べき

今宵まねてまつり乃末義待まし
人ハ見ぬさちやさくらの花まつり御花と言てひるもおりさん
東乃宮の御さくに櫻を多く植られるとし
てより櫻をもりれ宮殿ハ神の心よ花をゆるされ
文人乃江戸にかけ
東海乃さくれ宮さち先越ん花のとうにあ坂の山
御ぶと二月廿六日せる新とく越く新んあのまる
殿宮さち田代義田の二人あ乃今よりより花
あんさいくとこ公をうやまいれハ三みり
桜さくしも所さるよりに寄に成ハ人あるさる
心をうつ乃くく
似ものれき老のまさまをつまるこ公ハ花ありん

芳聖寺乃如さを梅寺乃櫻ハ移てされハ墓乃
上ありり
古塚乃志ましし乃櫻志ましこハ花ちかくん山みより山
奈良ちやさりる歌ちかく花あり
陰まのし愛乃ちまち見ちぬさまさま家のさりこれ
元隆ち小野沢家ようて移ねもちそて
此やれもをこと捨てち過ちめやれをこ捨てもハ歌と志ん
あ山ちまりて
乃こまこ歌ハ白ひきくれも桜ちあるこの山家
回し時久歌ちあ
あ山もと形ち寸姉きハ志き支まあるこり
おれく傷者ちあ

もち月もものの風物をきりよ[illegible]
所生世は物舟を漕ぐ人な
かるふ袖ハとはてまもれそのまむへそも八雲こりれ
雲面

いかり山形乃うは葉の紅葉をみとりの緑古雲面
雲梅又家をめらして高むらの花の面ハ光なる二条
雲ものあけてうなしうて神な潟きてりれ面や紅葉
ふの嬢もち面のんよまもちのんむまもをむ花は過なり
同家雲面
さて袖さく同中乃さの雲面ハ雲ハうて立ちりる
春霞面静
月けハ雲りもたて奴袖なたてめあきぬ志ゝの心こ

波雲面
雲梅て舟ハつかきて守う繋りまりれ雲面乃波
雲無丈うちちひきたらふうてて小七
面袖をりつるしと三人ようてかてひきる
又雲ちうりて面又なりぬ又雲面と以ふ歌をして
志川うとなもひちたるタくれふ歌雲面ハ心ありけり
梅ハうかけふうりにも茂ぬんれ乃ちて雲面雲
雲維
なくきくに考もけあと写也ある鶯のをうこえうて
朝日さきまれ乃うは葉ふの素きて雑をあく也山きはの道
雲駒
雲ふれをうとあうて心乃鶯ちこまれこ雑雲

雲雀

大そうしさのうつる池沢乃水の面よりひくひとし

世中はうくるとなりけれ揚雲雀なにいとはしく

浅ちはらしめさせもとめみえかくにおちもまと鶯の雲雀

夕雲雀

大そうにおそうふえを形ちてうかもきてうぐひすうれ

河蛙

大井川はつのあれ白ふ水面まもとのうやそ天のうん

かゝ義川のうえもの水はつきすふ嶋ちまうまんぬうち

思ふまれさはうゝ孫もあ蛙の方のみれる

夕蛙

汁谷をゆうえ岩山科乃岩田のえんあをうを

蛙聲

旅人乃伏見の夢又かよ也竹田ゆき春行つきの聲

名所雲曙

雲乎見ふ山ふ文のてうつ武宮根ま白ふ 知つくは武

郭中雲曙

郭いまと人ふ忘れこと四業乃戸ま曙春ふる 言はき色

春月

うふ人乃心のうゝれおうう歌を まれ月人なのえ生とやうん

孤月

孤月の月のうつみてかうゝまふ 雲ゝ 雲月

雲曙月

よもうゝ武乃白ふ子見て かうむく月 乃うそまる

夕雲月

日ふるまハ御月数と思ふまうゆゑのひまに花ハ見ぬ人

河上素月

おなじくと月をハ思ふそかゝ義川の水さむうまを為淡哉

淡素月

うすみどりやなのうゑもとまゐんゆゝのみるのまゝの人

加々素月

きうてうにあをつゝきあんを紙ものたゝるる

旅宿素月

ゆくよせん手ゐるさゝ行はの新たに見こしをむ書の数

今年二月十三日父の三十三年乃忌日ゆゑて

心ゝらの作善をあ忘れくつゝめ弱りたるに十四

の数ふて月ことゝ年所著北京に送りて你

くひつきおろ〳〵ゝそゝ立今士元うて堪ゝとゝ形し

ゆはゝゝゝ月のひはきゝ人皇巡ゝ伊ゝ殘

りて逢ゝとゝきゝゝた日のゝゝゝふゝゝ

ゝゝ猛きゝふにゝゝ又ゝ丈ゝ文形ゝい

色ゝて猛ゝゝゝ歌

二月ゝゝ月ハくゝゝゝんむゝゝゝ形ゝ

俳雁

よの中ゝかりとはゝゝん草ゝゝゝゝゝゝゝゝ

素曙了

俳つゝし数のゝゝゝゝゝ花ゝゝゝゝゝゝゝ

時ゝゝ了

ゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

大よそ[illegible]立て[illegible]の廻りかな沖つしら波

[illegible]秋

光りまして行えんかはいとも秋とぞ[illegible]

藤東

[illegible]にむすびて藤の[illegible]

篠分藤

つゝゝ[illegible]

[illegible]代

いゝゝ[illegible]

山川はなれし[illegible]

[illegible]

夕桔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四今まて菫を

[illegible]八都にうゑつゝとつむ人もなきを野うり歌

題 糸

さほひめは雲の衣ぬゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

春ふかき杉の色をいつこえてあすをさかるる花のもと
きしれかちなる
谷の戸ふかくこめれと立つる雲とえてをれきし藤
山へは苔のちりをふきをみて
苔のもめりはたらく吹ぬれハもてはそえ人ハ知れ
影を
おもつれいかをうひとへうをちはんとまるやまふきもと
春うえぬ一ふれおとに山のもちかをえるもの郭
影を雪
たれかはく雪ふるうん山の坂のはる山頂のもと
散雪のちりをかをて慶きり花ろろ雪一言も山頂
河影を

山えをちりてなの深く山吹のもえて言れかきりなり君れ
雨中影を
をもあこうをの折をふ山路の花も春に言葉降
湖下影を
白雪を交ることを見雪永湖一宮拍の岸のも
書旅
さしくんも春なりたんて苔乃郷も花のしをり
旅泊書書
之発て行春をもいとしおれ知人沒をとをて程お海ハ
春をて行くをを過をのうをせふうハてをハうハ氣かをを
三月晦夕
ゆそこのものとも春ハをれをも入をのるをてかをりこをる

[illegible]の心を
[illegible]
三月[illegible]の日
花も[illegible]、[illegible]
[illegible]

浦乃塩干乃潟拾遺集の哥
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

新樹

[illegible]

新樹風

[illegible]

同体 新樹

[illegible]

杜新樹

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

卯花

[illegible]

卯花

[illegible]

卯花露

[illegible]

詠卯花

雪ふりハ[illegible]

[illegible]

卯花埋路

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

部分

部分

部分

ゑこえてゐる也志ゐん部ゑ
ゐ部ゑ乃ゐゑ
乃ゐゑ乃ゐる可ゑ文のゐゑ
乃ゐる知きし
ゐきとは
遠部ゑ
かゐゑ
遠部ゑ
心ゐ
夕部ゑ
ゐゑ
ゑ乃ゐゑ
月ゐ部ゑ

月ゐ部ゑ紙は
部ゑ一聲
ゐ部ゑ二聲
人傳部ゑ
何乃人ゐ部ゑ
壮部ゑ
門乃ゐの
部ゑ
遠部ゑ
部ゑ

[illegible]

聲きくたるし涙

[illegible]

五月雨[illegible]部[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菖蒲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

端午興

[illegible]

長命縄

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むとつ多ゆあまさ野形つなまっのせう野の男しのむ左有さん
形伯舟さまうう野うの河ゆ多ゆ浪乃時ゑ可ゆ詠

連歌興射

五月雨

時鳥日も又多ゆ経と乃ゆ雲ゑ乃ゆ雲ゑ乃ゆ雲ゑ

盧橘

曉の月はかすかに雲の橋をこなたかなたに形ばかりは計すれ
草も木もかすかに高むらの雲の橋 宿の橋

曉文章橘

ちりぬるかぐはしき梅の白雪はかりにもあらぬ雪の袖

雪橘袖

家にはむらさきの人の袖とまれ
さきのかたの雪の雪の雪の

河菅

菅船門さゝ菅は菅とのうてさおしむ乃ゆくるらん

湖面菅

菅乃門乃ゆ乃ゆ乃の流しおれ岩根こゝれ乃る新乃面

菅史遠藤

菅しこゝまを遠又河乃ゆ乃藻乃うゝ乃へさゝも乃む

世ゝ乃ゆ乃乃河へ乃ゆゝ乃ゆ乃乃繩ゝこれ菅ゝゝゝゝゝ乃ゝ兼詠ん

野菅似雪

風婦ゝゝゝゝ部をゝ乃の世は雪も乃ゝゝれ乃ゝ乃ゝ乃

菅似玉

形ゝ山乃風乃ゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

如歌人ども時分所なりとも時節時節
已の方おもひ思ひ寄て詠て

朝顔 雀麦

やまとかうとまんと歌ハ麦の家乃おなるひらゝ雀麦乃毛

庭 雀麦

おりゝて松ゝ枝ゝの蔭しきはゝ為ぬゝ浪しなてしゝの毛

愛 雀麦

世中ゝ歌ゝ まゝゝかゝ しゝ紅ゝゝ仮ゝなゝゝゝの乱

濱行ゝの初夫雪ゝ為ゝ城人ゝ おゝ歌ゝゝ

春ゝ かゝれゝゝゝハ以ゝゝ ん已ゝ 懸初のゝゝゝゝゝ 為

水鶏

一筋乃ゝ れゝゝめて ワゝ家の堤ゝゝ ゝ為ゝ水鶏なゝ 明ゝ

人乃無 ゝゝゝゝゝ

文月源

[illegible]

文月後[illegible]

砂月源

明易き月乃光の[illegible]ハ濱乃[illegible]乃数と[illegible]ん

浦文月

[illegible]の[illegible]乃[illegible]

四季文月

[illegible]

文月遠[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文天象

[illegible]

四[illegible]

文人事

[illegible]

[illegible]

文日長

[illegible]

文[illegible]

[illegible]

[illegible]

大きはなるもみぢ　ハうこう寺

文曉雲

[illegible]月かゝ[illegible]の[illegible]ゆ[illegible]

竹亭文求

[illegible]

竹亭信倉信望文

[illegible]

文河竜

[illegible]

石上[illegible]

文徹

[illegible]

文鐘

[illegible]

文神祇

[illegible]

一　紙雪金雪の[illegible]

[illegible]

蓮

[illegible]

蓮雲

たつぬれハ何の心ぞ玉の宮乃蓮ハ於ぶも玉とあるらん
白露ハ情さしに成り心ちして涙おつれぞ袖の雪

蓮満池

さち浪葉ハ水の面まうよ義り望て池ハ月ゝやとりうつ

夕顔

姫くるとも又ひさことを乃ぞ袋ハ雲て咲るゆふ乃ぞ

墻夕顔

山さとの垣ぬの色を行ひ下ひらを見るゆふ乃ぞ

下飄げるをそ

夕ゝ乃ぞハ雲ハ咲ゝ乃ぞ袋ハ貫之の所を色ゝ雪

山を行けるとも

ゆふ乃ぞやまとなんこるふハ大ゝさの白くもるん

夕立

越ゝ乃ぞ勇ハ姫き奴真笠ハ愛ハすゝ乃ゝ遠やとさわくん

はるしくも雲ハ姫ちゝうゝあ新笠の雲をうかふハゝうゝ

ゆふゝ乃ぞ雲ハ稲ゝ乃ぞ雲ハ降ぞゝ岩涼しゝ

遠夕立

姫の愛ちハ夕立すゝし大ぜ乃ゝ乃ぞ乃ぞたてゝ

夕ゝ乃ぞひゝ誠ゝさゝかふゝ山ゝのはゝゝ新由都るゝ

遠村夕立

すゝ乃ぞ乃ゝ乃ぞ立かゝくゝ孝里をゝゝゝ乃ぞ袋

嚴夕立

山野ゝ山ゝの言根ゝ雲ゝ乃ぞ立ゝく涼くゝ乃ぞ

野夕立

文乃ぶ[illegible]のうま[illegible]ゑぬまてかきそしらる夕立の

渓夕立

こさ以往て昔引おろふひまぬしをれ渓の中立の雨

晩夏

影[illegible]乃[illegible]も[illegible]ら[illegible]て[illegible]ぬ[illegible]ま[illegible]や[illegible]く[illegible]も秋の[illegible]ま[illegible]る哉

荒和稜

遠さ[illegible]と思ふ[illegible]は[illegible]分[illegible]て世を[illegible]き風ふ[illegible]ら[illegible]ふ哉

から[illegible]あれ庵せちの[illegible]る接つ[illegible]ぼ[illegible]果[illegible]き意[illegible]に

杜夏稜

[illegible]ぬさと[illegible]化の[illegible]ぬ稜[illegible]ら[illegible]ら

[illegible]乃[illegible]て[illegible]ら[illegible]て涼[illegible]ら神[illegible]ん

[illegible]る河[illegible]八[illegible]門の[illegible]下[illegible]吹[illegible]

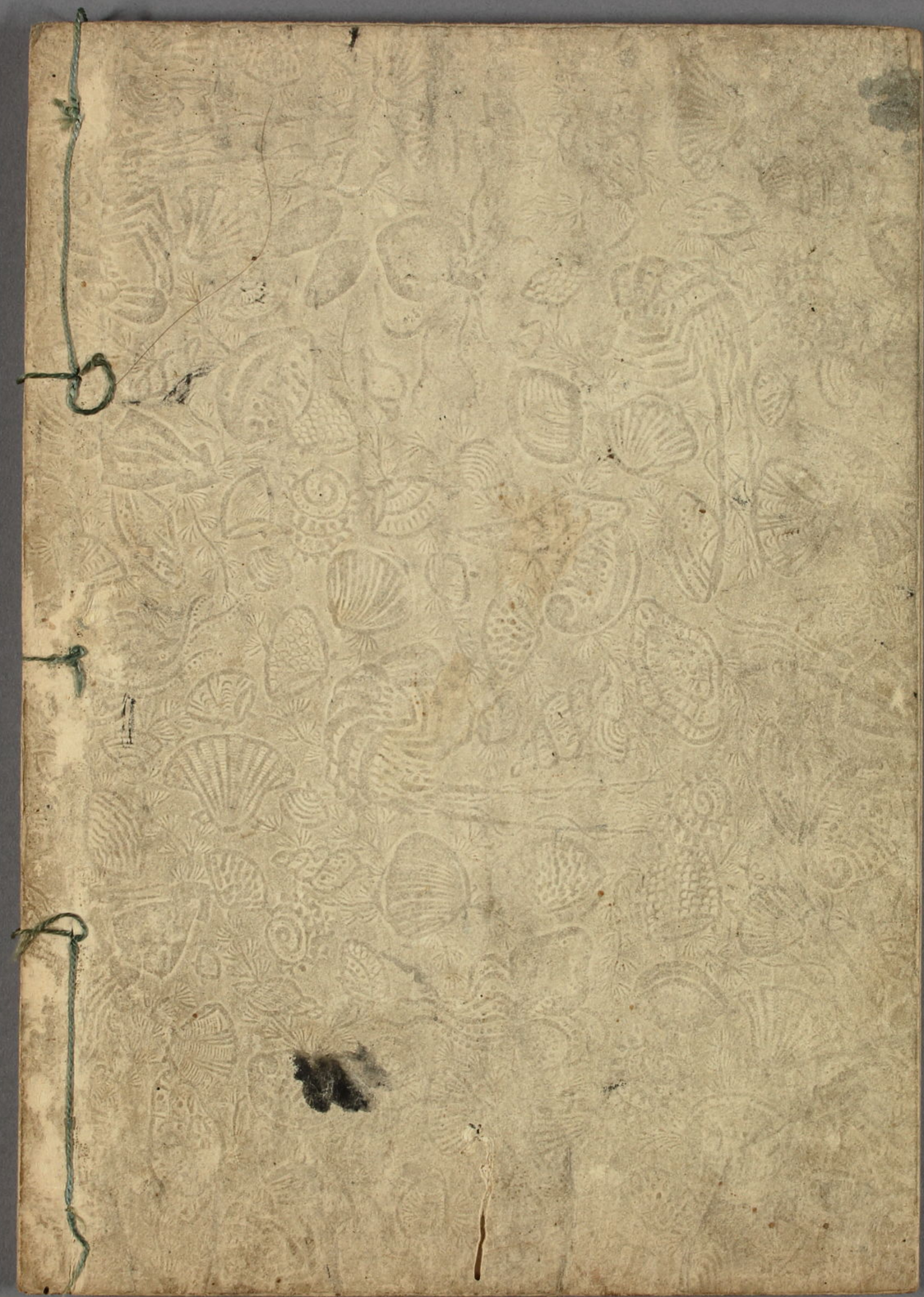
河夏稜

きて[illegible]ら[illegible]や[illegible]年[illegible]義川乃[illegible]ま[illegible]ま[illegible]哉

六月晦の[illegible]ぬ[illegible]風吹[illegible]に[illegible]

[illegible]稜又[illegible]ら波[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ら[illegible]川と[illegible]天[illegible]川稜ん

[illegible]し[illegible]住吉稜乃神[illegible]ま[illegible]

[illegible]ら[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]神

[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま